

子どもの心肺蘇生の手順

5. 人工呼吸を2回行う

成人における手順と同じで、約1秒かけて胸の上がりが見える程度の量を吹き込むことと、感染防護具を使用することが望ましいことに変更はありません。

ただし、乳児に対する人工呼吸は、乳児の口と鼻を同時に自分の口に含んで呼気を吹き込む口対口鼻人工呼吸法(図)とします。

救助者の口で乳児の口と鼻を同時に覆いきれない場合は、通常の口対口人工呼吸法とします。

感染防護具を持っていないで、口と口(鼻)が直接接触することに躊躇する、あるいは感染防護具を持っていても準備に時間がかかりそうな場合などでは、人工呼吸は省略して、ただちに胸骨圧迫に進んでください。



図 口対口鼻人工呼吸法